法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-10

<巡検報告>(5)登呂遺跡・久能山地方巡検記

広川, 裕子

(出版者 / Publisher)
法政大学地理学研究室
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政地理
(巻 / Volume)
1
(開始ページ / Start Page)
38
(終了ページ / End Page)
39
(発行年 / Year)
1950-07-01

此処を湿地化したと思われる河口の砂嘴らしきものを越えて銚子港に出る。有名な魚市場では休日のため新悪しく獲物の入荷状況を見る事が出来なかつたが、山と積まれた漁箱が凡そ一日で消化されるという話で大体の活気は推察する事が出来た。それより大利根の河口を渡り波崎の町に出、有名な鹿島の大砂丘を見る事が出来た。全く日本ばなれしたあたかも砂漠の中に立てる如き感を与える雄大さに一同一驚したが毎年砂丘は削られて行くと云う事でその砂止めの柵が作られて居た。その原因は未だ不明との事である。此の砂丘の砂は下の丘迄そのものから供給されるのだと云う。それより新鮮なる魚を手土産に海の如き河口を銚子に戻り、有意義にすごした一日を先生に感謝して解散した。

5 登呂遺跡・久能山地方巡検記　　広川禎子

かねて岡山教授の講義や、夏田教授の御指示等に依り計画中であつた静岡地方への巡検が十二月二十五日から二十六日にかけて行われた。参加者は十一名、二十五日の最終列車で東京駅を発車。二十六日午前四時過ぎ未だ暗いとばりに包まれた静岡駅に到着。五時、冷い星空の下に、地図と懐中電燈を頼りに出発。八幡山附近を通過して登呂遺跡に着いたのはやつと白みかけた頃であつた。粘土層によつて埋没されていつた登呂の弥生式文化期に於ける水田聚落住居の発掘、埋没の原因として、安倍川に依る静岡平野形成過程に於ける自然堤防説や、地盤変動説、地震説などがあるが、短時間では之等についてあまり調べる事が出来なかつた

然し安倍川の乱流による自然堤防の形成や後背湿地の粘土層による埋没、それは又地盤の変動と相俟つて促進されたのではなかろうか。

住居址中にあつた木材、水田遺構の柵板等を見学して後、畔道伝いに高松砂丘に向う。途中土地利用、特に茶畑について狭山丘陵附近のそれと比べて論じ乍ら久能街道に出る。大谷川橋附近で砂丘のカッティングに依り砂礫の地層を調べ、更に中平松の典型的な天井川を通過する頃になると、久能山麓の有名な石垣苺の栽培景観が展開されて来た。経営者をつかまえての話によると、この石垣苺は商品作物として市場価値が高いだけにその栽培には苦心を要すると云うことがわかつた。十時過ぎ久能山登山口に到着。十一時半頃日本平を目指して出発した。今迄街道を歩

きながら見て来た久能山塊南面のきり立つた崖に刻みこんだ横穴や、中平松の天井川の外幾ケ所かで見た洪水によつて埋没された河道の跡、更に山道の礫の堆積、山体の侵蝕状態から久能山が砂礫物質により構成されていることが充分に認められた。

日本平に登ると、北西にかけて展開された静岡平野が一望の下に見下された。かつては沈下して海水が山際迄侵入し潟状をなし、その湾内の島であつたと考えられる八幡山、石澤山及び有東山が今は、水田や人家によつて埋もれた堆積平野の中に、始も往時の島を思わせる如くに浮び出て見えた。

下山開始。徒歩で清水市に到り帰京時間の都合で八名が残り、船で三保分校砂嘴に向つた。時間に追われて唯、松原を通り羽衣の松を見、駆ける様にして乗船、午後五時三十三分清水駅発の列車で帰京した。

夜行列車を使っての相当強行軍の旅行ではあつた。、岡山教授の「静岡東部」に関するマップ・リーディングによる基礎知識と、夏田教授の登呂遺跡を中心としたお話が、この巡検に依り一層理解を深めることが出来たことを感謝致します。

以上。